

# 第1回噴火湾ホタテガイ情報(2012年)

発行日：平成24年2月24日

函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場、胆振・渡島北部・渡島中部地区水産技術普及指導所

2月の餌の量から、今年(2012年)も良好な採苗が期待されます。

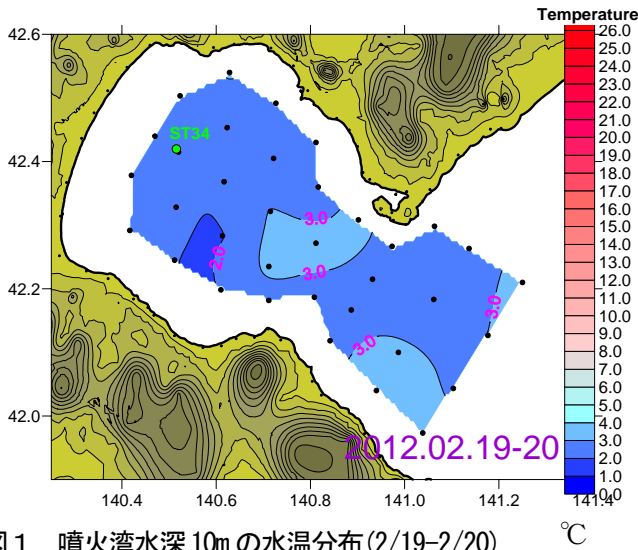


図1. 噴火湾水深10mの水温分布(2/19-2/20)

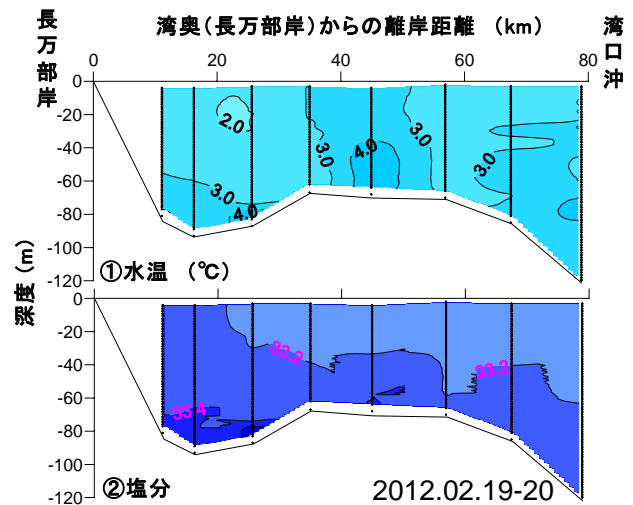


図2. 噴火湾断面の環境変量分布

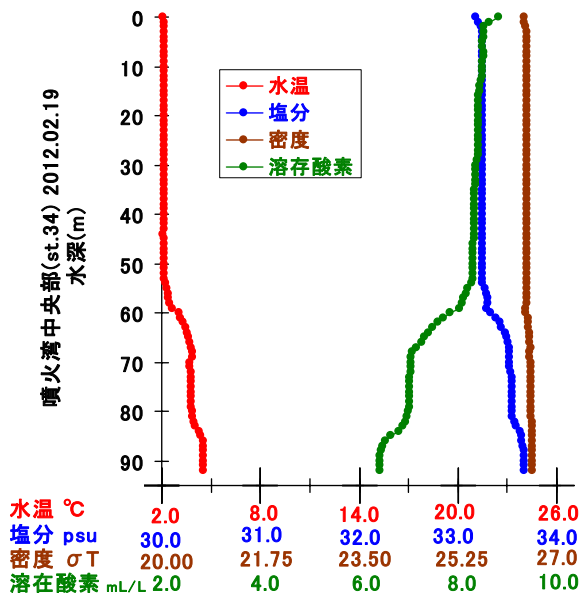


図3. 湾中央St. 34における環境の鉛直分布(2/19)

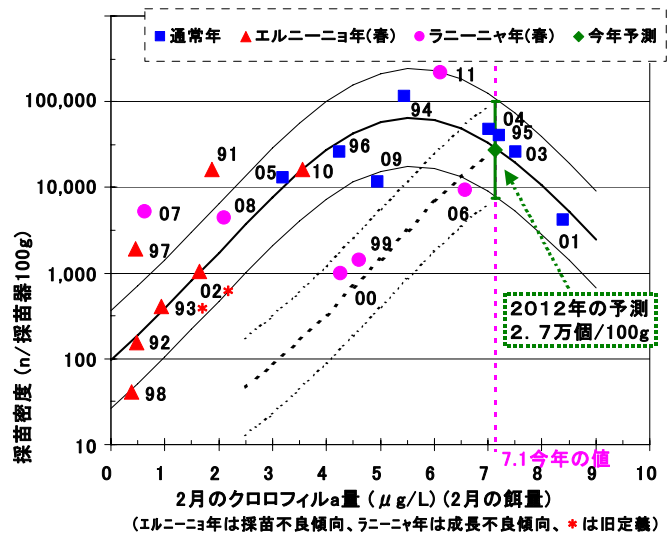


図4. 2月の餌の量と種苗密度の関係(今年の種苗密度の予報、図中の数字は西暦の下2桁)

【概要】 2月19～20日に、釧路水産試験場の北辰丸により、噴火湾の環境調査を行いました。湾全域の水深60m以浅に湾外の冷たく塩分濃度の低い海水が流入しています(図1, 2)。これは沿岸親潮が大規模に流入した影響と考えられ、2月としては、2000年(0.8°C)と2001年(2.0°C)に続き、1991年以降で3番目に冷たい水温です。湾中央では、水温2.1～4.5°C、塩分33.2～33.7で、溶存酸素も6.4mL/L以上(88.6%以上)と十分ある状態です(図3)。

過去の調査結果から、種苗密度(採苗器100g当たりの種苗数)には、①生殖巣発達前期の2月の餌の量が最も大きな影響を与えること、②採苗不良は主に春にエルニーニョが発生中の年に起きていることがわかっています(図4)。今年の2月の餌の量はクロロフィルa換算で7.1μg/Lと十分な餌量がありました。この餌の量は採苗が良好だった1995年・2003年・2004年と同レベルで、今年も良好な採苗が期待できそうです(図4)。また、採苗が良好だった2003年の2月の水温(2.3°C)も今年並みに低かった事から、今のところ低水温の採苗に対する影響は小さいと考えられます。4月以降の各地区指導所の「採苗情報」や、函館水試の「噴火湾ホタテガイ情報」を参考に、採苗の準備をしてください。

(連絡先：北海道立総合研究機構 函館水産試験場 調査研究部 管理増殖グループ 馬場・渡野邊・金森)